

授業科目 小児言語障害学Ⅰ

【担当教員名】		対象学年	2	対象学科	言語
山 岸 達 弥、渡 辺 時 生		開講時期	前期	必修・選択	必修
		単位数	2	時間数	30
【概要・一般目標：G10】 言語発達障害の中で、精神遅滞、広汎性発達障害の特徴を理解する。 評価方法を障害の診断基準および発達の観点から理解する。 検査の種類とその利用、検査の実際（施行、採点、解釈、翻訳）と報告書の書き方を理解する。 指導の諸技法、指導のためのプログラム、指導上の留意点を理解する。					
【学習目標・行動目標：SB0】 1. 小児の言語障害全体を理解する。 2. 言語発達障害の成因となる障害の言語・行動特徴および評価・診断基準を説明できる。 3. 各種検査を理解し、適切な検査法を選択できる。 4. 指導法の総論について理解する。 5. 指導法の各論について理解し、実践できる。 6. 検査の施行、採点、解釈、翻訳（報告書を含む）の各段階を理解できる。					
回数	授業計画・学習の主題			SB0 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	言語発達障害の概要			1	講義
2	精神遅滞（知的障害）			2・3	講義
3	精神遅滞（知的障害）			2・3	講義
4	精神遅滞（知的障害）			2・4	講義
5	広汎性発達障害			2・3	講義
6	広汎性発達障害			2・3	講義
7	広汎性発達障害			2・4	講義
8	各種検査の理解（1）			3・6	講義
9	各種検査の理解（2）			3・6	講義
10	各種検査の理解（3）			3・6	講義
11	指導法の理解			4・5	講義（非常勤講師：入山）
12	指導法の理解			4・5	講義（非常勤講師：入山）
13	指導法の実際			4・5	講義（非常勤講師：入山）
14	指導法の実際			4・5	講義（非常勤講師：入山）
15	まとめ				
【使用図書】		<書名>		<著者名>	<発行所> <発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)					
参考書		リストを講義開始日に別途配布			
その他の資料					
【評価方法】		【履修上の留意点】			
出席状況(20%)、小テスト(10%)、期末試験(70%)		演習時には他人任せにせず、各自積極的に参加すること。			